

身体拘束が与える影響 ～心の傷が癒えるまで～

特別養護老人ホーム晃の園
森 彩乃

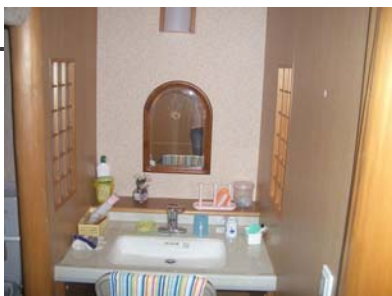
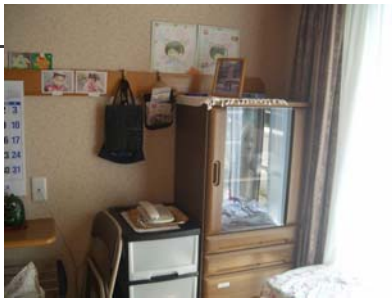
晃の園 沿革

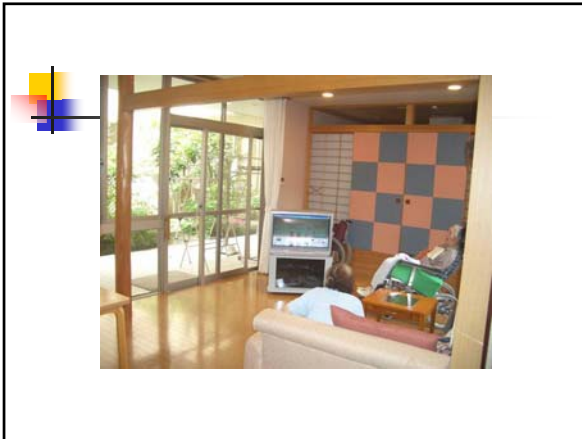
- ◆昭和63年 “認知症専門”の特養として開設
 - ・専門性の未確立 ⇒ 拘束を中心とした介護
- ◆平成11年 身体拘束禁止を規定(厚生省令)
 - ・勉強・討議・見学・研修の実施
- ◆平成12年 身体拘束廃止
- ◆平成13年 ユニットケア開始・改修工事開始
- ◆平成16年 新型特養増設



A様について紹介

- ◆83歳 女性 平成18年8月入居
- ◆介護度 1
- ◆認知症高齢者日常生活自立度 I
- ◆お洒落





A様が受けた身体拘束

①物理的な抑制

- ◆両手のミトン
- ◆抑制ベルト
- ◆つなぎ服
- ◆ナースコールは手の届かない位置

②精神的苦痛

- ◆身体拘束から開放されるのは、ご家族の面会時のみ
→ご家族に帰らないで欲しいと訴える

退院後の様子

- ◇精神的苦痛の持続
- ◇幻聴
- ◇体重減少 -2.2キログラム

退院一カ月後の様子

- ◇居室へこもりがち
 - ◇お茶のお誘い拒否
 - ◇殆ど臥床し過ごす
 - ◇幻視症状
- ・信頼関係、馴染みの関係作り
 ・好きな活動へお誘いする

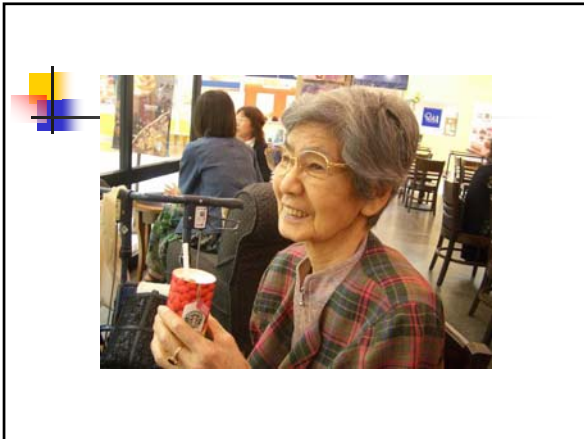
退院三カ月後の様子

- ◆食欲・体重増加
- ◆徐々に活動参加
- ◆同じテーブルの入居者と挨拶を交わす
- ◆幻視症状消失

現在の様子

- ◆自分から食堂へ
- ◆活動へ意欲的に参加
- ◆ご自分で歩行訓練
- ◆毎朝洋服を選びお洒落を楽しむ

=入院前の生活



まとめ

- ◆ 身体拘束＝心の傷
- ◆ 生活環境を整える

- ・慣れ親しんだ家具の揃う居室
- ・家庭的な雰囲気
- ・行動の自由
- ・馴染みの人間関係

安心感
生活意欲の向上
心身の安定

生活に目を向けたケアを！